

# 海の恋人たち

1959  
作品ナンバー0028

文部省選定 東京都教育委員会選定 東京映画愛好会推薦  
松竹系配給

劇  
35ミリ  
白黒／63分

海に働く男たちの劇映画は、酒、女、港町での暴力などがつきもので、健康で明るい海員の姿を描いたものは少ない。海に働く男たちの日常の姿を誇張なく描いたところに、この作品の新しさがあった。木村監督は、シナリオ執筆に先立って約半年を海員たちと生活を共にし、海員とその家族との書簡集『愛よ波を越えよ』と『航海記』を基礎に18万の海員と、家族50万の声に答えようとしてこの映画を作った。



貨物船N丸は遠洋航路3ヵ月の旅を終えて、嵐の中を日本へと近づいていた。海員たちは皆、陸で待つ妻や恋人の姿を心に描いていた。だがN丸は嵐に流され、急きよ停泊予定を横浜港から名古屋港に変更した。その頃、山口の妻とよ子は東北本線の夜汽車で横浜へと向かっていた。横浜港でとよ子はN丸が名古屋港に入ったことを知り茫然とする。だが、夫に会いたいという情熱が彼女を名古屋へと走らせた。すでに名古屋港に投錨したN丸では、山口がとよ子を案じていた。機関士の鈴木は19歳。恋人和江の待つ名古屋は彼の郷里だ。タラップをおりると和江の姿があった。母や祖母にも会いたい。鈴木是和江を待たせて我が家へと走り、また彼女の元へとよ子は、またしても間に合わず、疲れた体で、再び夜汽車の人となる。横浜港の埠頭では、大勢の家族が出迎えていた。そこには、やっとたどりついたとよ子も小沢機関士の妻と6つになる息子もいた。とよ子は山口への思いで一杯になった。

上陸して、大勢の男たちは東の間の逢瀬を精一杯生きる。高松甲板長も小沢機関士も家族と久しぶりの時を過ごす。山口ととよ子夫婦も恋人同士のように愛し合い、幸福を感じて未来に希望をもつ。2日間は瞬く間にすぎ、N丸は太平洋の荒波に旅立っていった。

- 自主企画
- 後援・協力  
全日本海員組合  
日本船主協会

## スタッフ

- 製作  
村山英治  
大西雅夫
- 脚本・演出  
木村莊二
- 撮影  
木塚誠一
- 音楽  
岡田和夫

## 出演

- 山口操舵手：  
塚本信夫
- 山口とよ子：  
筑紫あけみ
- 小沢一等機関士：  
内藤武敏
- 小沢菊枝：  
阿部寿美子
- 高松甲板長：  
松本染升
- 高松節子：桜井良子
- 鈴木機関士：  
仲村秀生
- 長谷川和江：  
中村 歌
- 村山船長：坂本 武
- 渡辺通信長：  
野々村 潔
- 本社の部長：  
永井智雄
- 本社の課長：  
稲葉義男
- 鈴木のおぶ：飯田蝶子
- 「ミナト」のマダム：  
水戸光子  
他